

大会  
報告

# ジュニア 100 名、寒風中を疾走

多摩 OL  
鈴木博実

第 31 回ジュニアチャンピオン大会 2014 年 1 月 19 日 東京都青梅市

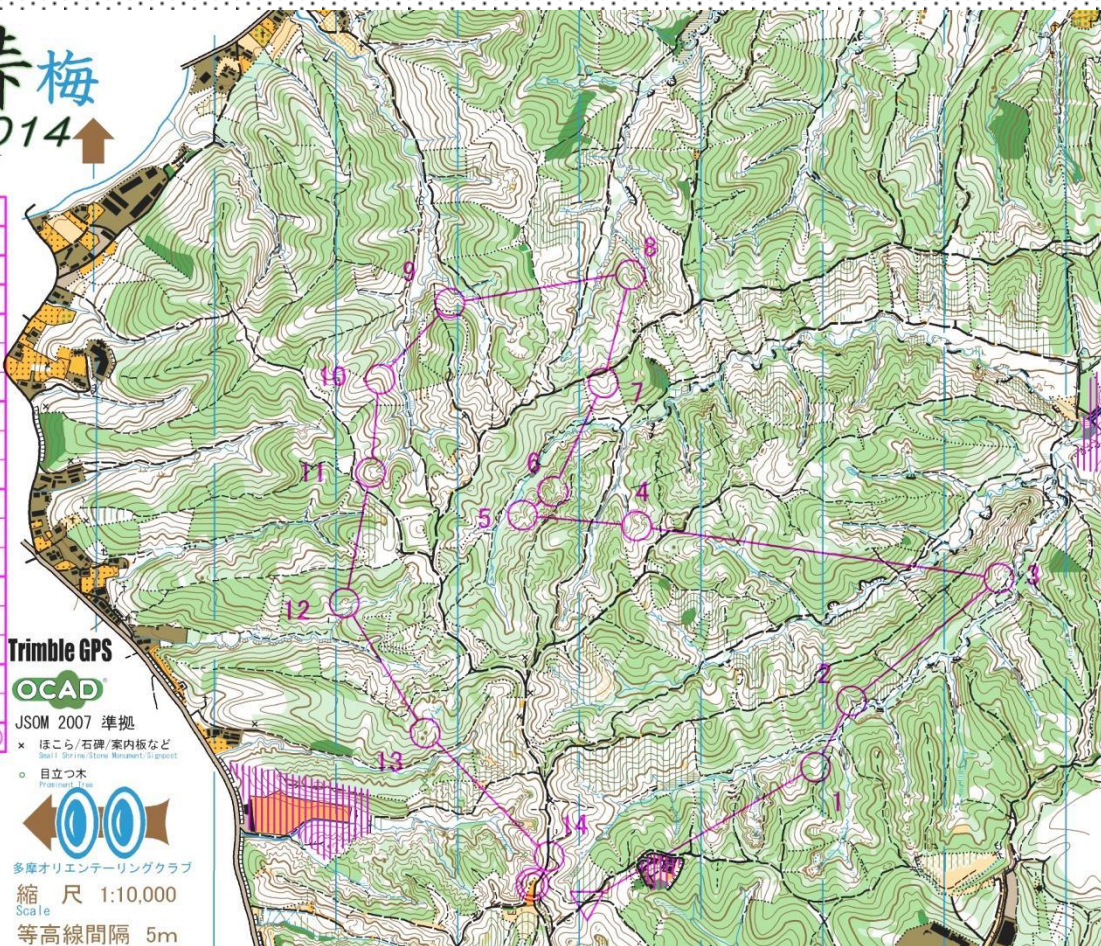
## 七国峠梅

Nanakuni-touge 2014

埼玉県飯能市・東京都青梅市  
Hanno, Saitama / Oume, Tokyo

第31回ジュニアチャンピオン大会

JME, JWE		4.4 km		350 m	
1	2	3	4	5	6
1 104	2 106	3 48	4 128	5 132	6 131
7 136	8 137	9 139	10 140	11 143	12 145
13 147	14 115				



平成26年1月19日(日)  
緊急連絡先  
090-6107-0505

多摩オリエンテーリングクラブ  
縮尺 1:10,000  
Scale  
等高線間隔 5m

2014 年 1 月 19 日 東京都青梅市  
第 31 回ジュニアチャンピオン大会

### 慌ただしく始まった第31回ジュニアチャンピオン大会

今回で31回目を迎えたジュニアチャンピオン大会は、恒例の1月第3日曜日(正式には、月末から2番目の日曜日)である1月19日に開催しました。一部雪の心配もあり、また当日は突風が吹き体感気温はかなり低くなりましたが、幸いにも日差しに恵まれ、397名(当日参加を含む)の参加者に恵まれました。

当日朝の会場準備には30分程度しか時間が取れなかったため、かなりバタついてしまい、早くから会場に集まって頂いた参加者には、いろいろご迷惑を掛けてしまったこととお詫言申し上げます。また、スタートまで2.1kmあったため、トップスタートに近い参加者には慌ただしい思いをさせたことと思います。会場をもう少し早い時間から利用できればよかったです。残念ながら今回はそれが不可

能だったのでこのような状況になってしまいました。今後は、MALを3クラスに分けてトップスタートから最終スタートまでの時間間隔の短縮を検討する必要がありますのかもしれませんが。

### 尾根越えか、沢廻りか

今回使用したトレインは、40年近くにわたって多くの大会で使用され、またジュニアチャンピオン大会として、最近隔年で使用している七国峠です。半分以上の土地を立正佼成会が所有・管理していることもあり、東京都内でこの広さでこの程度の高低差に収まるトレインは他にはないと言っていいほど素晴らしいトレインです。今回使用したエリアは、外周部を除くと人家や田畑がほとんど存在しません。東西に延びる尾根、沢を中心にその枝尾根、沢が複雑に伸び、全体的に小道が多く発達しています。このため、メインの沢筋や尾根筋を何気なく走っていると、簡単にパラレルエラーを犯してしまいます。斜面の傾斜はやや急なところもありますが、沢から尾根までの高低差

はそれ程ではないので、尾根越えか、沢廻りかというルート選択を課すコースを組むことができました。参加者からも、ルート選択があり面白かったという感想をいただきました。



スタート直後 (撮影: 上林弘敏氏)

### 接戦となった JME

本大会のメインクラスである JME には 28 名の参加者があり、上位は、1 位と 2 位の差が 26 秒、6 位から 9 位までの差が 1 分 37 秒、そして表彰台を分けた 10 位と 11 位の差は 8 秒と、秒差の勝負となりました。わずかなミスやルートチョイス、そして走力の差が勝負を分けたのかもしれませんが。上位 3 名



は優勝想定タイムを切り、さらに検討会のために走ったエリートランナーにかなり接近しており（今回は1人に勝っています）、高校生のレベルアップが進んでいるように感じました。

JWEは1名のみでの参加となり、女子ジュニアチャンピオンを決めるという点では寂しいものとなりました。今回JWEはJMEと同じコースだったので、山岸さんの記録はJME-20位相当になります。本人の実力からすると少し不本意な記録だったのかも知れません。

なお、各クラスの成績については、ラップセンターや大会のホームページ(<http://www.orienteering.com/~tama/jc/jc31/index.html>)をご覧ください。



JME 入賞者



JME 1位 稲森剛君(左)と  
JWE 1位 山岸夏希さん(右)

## 恒例企画1 ルート検討会

ジュニアチャンピオン大会の特徴のひとつに、エリートランナーによるJMEクラスのルート検討会があります。検討会を行ってもらうエリートランナーには、自分の参加クラスを走った後で、実際にJMEコースを走ってもらい、各自のルート選択の意図を大判の地図を利用して解説してもらいます。今年は、東大生2名を含む全員が20歳代という若手エリート選手にお願いでき、現役の高校生により親密さを感じてもらえたのではないかと思います。特に今年はルートチョイスが多いコースだったので、エリートランナーのルートチョイスに関する考え方がよく分かった

のではないのでしょうか。



ルート説明会 (撮影: 上林弘敏氏)

## 恒例企画2 じゃんけん大会

ジュニアチャンピオン大会のもうひとつの恒例企画といえば、大じゃんけん大会。今年もおかげさまで大いに盛り上がりました。表彰式の最後まで参加者に残ってもらおうという意図で開始したイベントですが、今では競技でいい成績を残せなかったとしても商品ゲットのチャンスとして心待ちされている方も多いのではないのでしょうか。ここ数年景気があまりよくなく、景品の用意に苦勞していますが、これからも参加者の期待に応えられるよう努力していきたいと思っています。



じゃんけん大会 (撮影: 上林弘敏氏)

## 試み1 ナンバーカードの導入

新たな試みとして、ナンバーカードを導入しました。これは、昨年の大会において、スタートタイムの異常、フィニッシュユニットやエミットカードの故障、計算システムのトラブル、ゴールでのビデオ撮影ミス等によりタイム確定に手間取ってしまった反省からです。この時期の大会開催なので、寒さによるカードやユニットの故障は避けられません。そんな場合でも、ジュニアや初心者が多い本大会では、多くの参加者の記録を復元してあげたいという思いで、様々なバックアップ対策を取り入れています。新たにナンバーカードを着用することで、スタートでのチェック精度が向上しました。ただゴール映像ではナンバーが光ってしまっていたので、撮影方法は見直さなければなりません。幸いに今年は大きなトラブルもなく、記録を確定することができ

ました。なお、ゴールの映像は、大会のページからリンクをたどると閲覧できます。

## 試み2 最速ルートの掲示

これまでの大会では、ルート解説のために、JMEのみの最速ルートを掲示していましたが、今回からは各コースの最速ルートを体育館の壁に掲示しました。参加者からは、「自分が走ったコースの最速ルートが分かって勉強になった」とか、「これまでのルート検討会では、後ろの方に座ると説明されるルートがよく分からずもどかしかったので、いい試みだ」という感想を頂きました。大判地図は会場の雰囲気盛り上げますので、来年以降も継続していきたいと考えています。

## 試み3 表彰者待機スペース

3番目の試みは、表彰対象者に、表彰台前で待機してもらったことです。呼び出しに係る時間の短縮を狙ったものですが、十分効果が上がったと感じております。ただ、待機場所は、最初から空白エリアとなってしまう、有効活用できていませんでした。この点は次回に改善したいと考えております。



待機中の表彰者 (撮影: 上林弘敏氏)

## 今後に向けて

本大会は、ジュニア中心を謳っており、今回も100名を超えるジュニアの参加者を得ることが出来ました。また、ランナー系の方の参加もあるのも特徴です。そのため、他の大会に比べ、初心者向けに配慮しております。もちろん普段から大会に参加されている参加者にも十分満足してもらえる大会を目指しています。そのために、恒例企画となっているルート検討会やじゃんけん大会等に満足せず、今回のようにいろいろな新しいことを試していきたいと考えております。

次回の大会(2015年1月18日)へのみなさんのご参加をクラブ員一同心待ちにしております。

(鈴木博実)